こどもの
世界文学

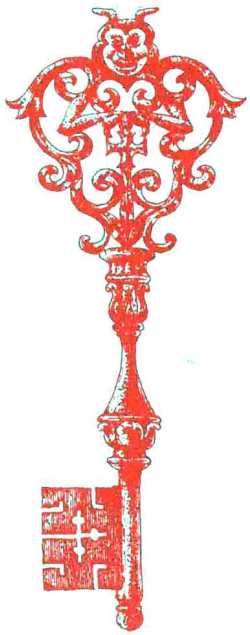
953
ギヨ，ルネ
こどもの世界文学　14　神宮輝夫　ほか　編集
こいぬの月世界探検　塚原亮一訳
Un Petit Chien Va Dans La Lune
講談社　1973
238 p　24 cm
内容：こいぬの月世界探検
ルネ＝ギヨ　René Guillot

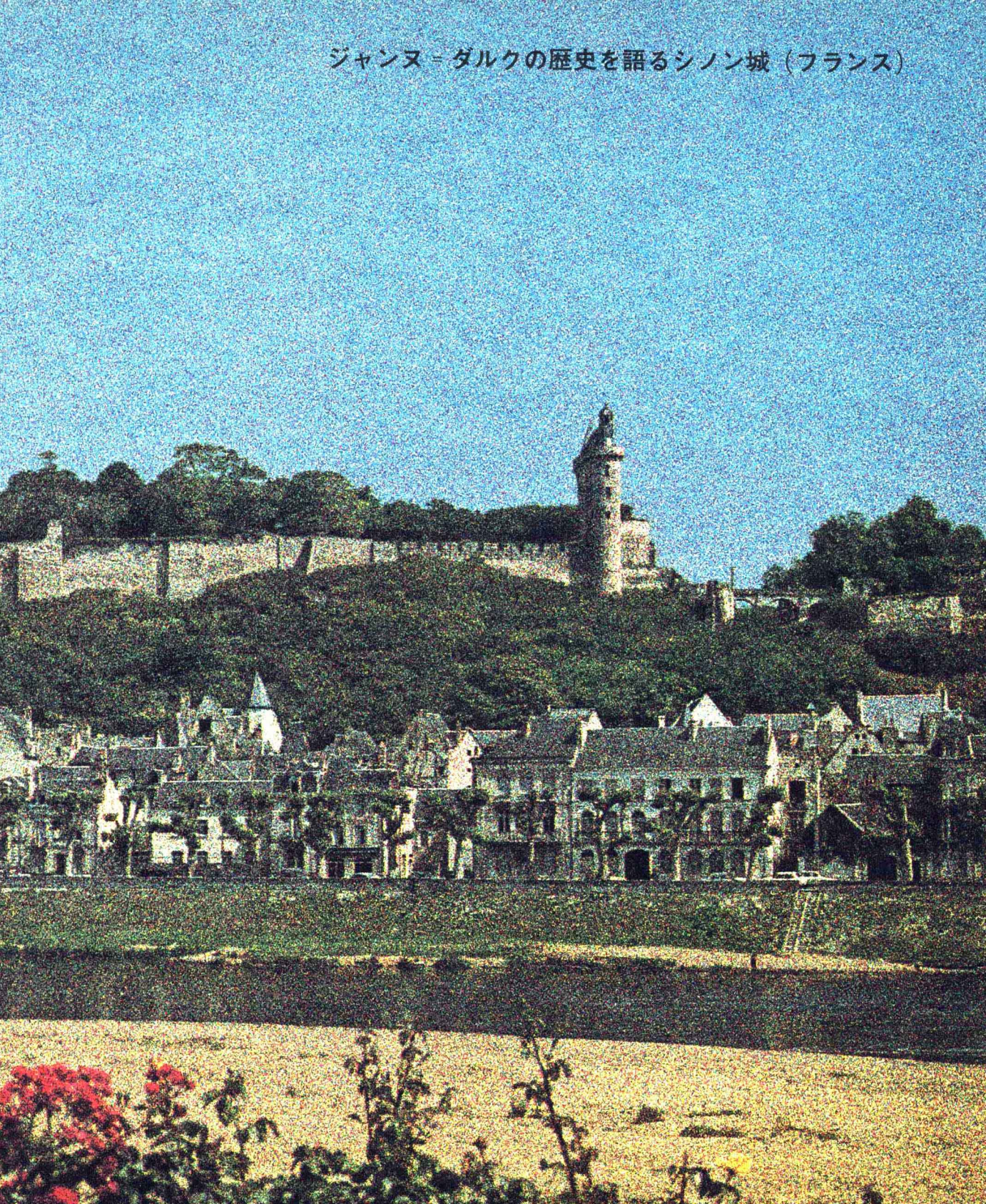
こどもの世界文学14
こいぬの月世界探検

昭和48年7月16日　第1刷
昭和51年　第6刷（B）

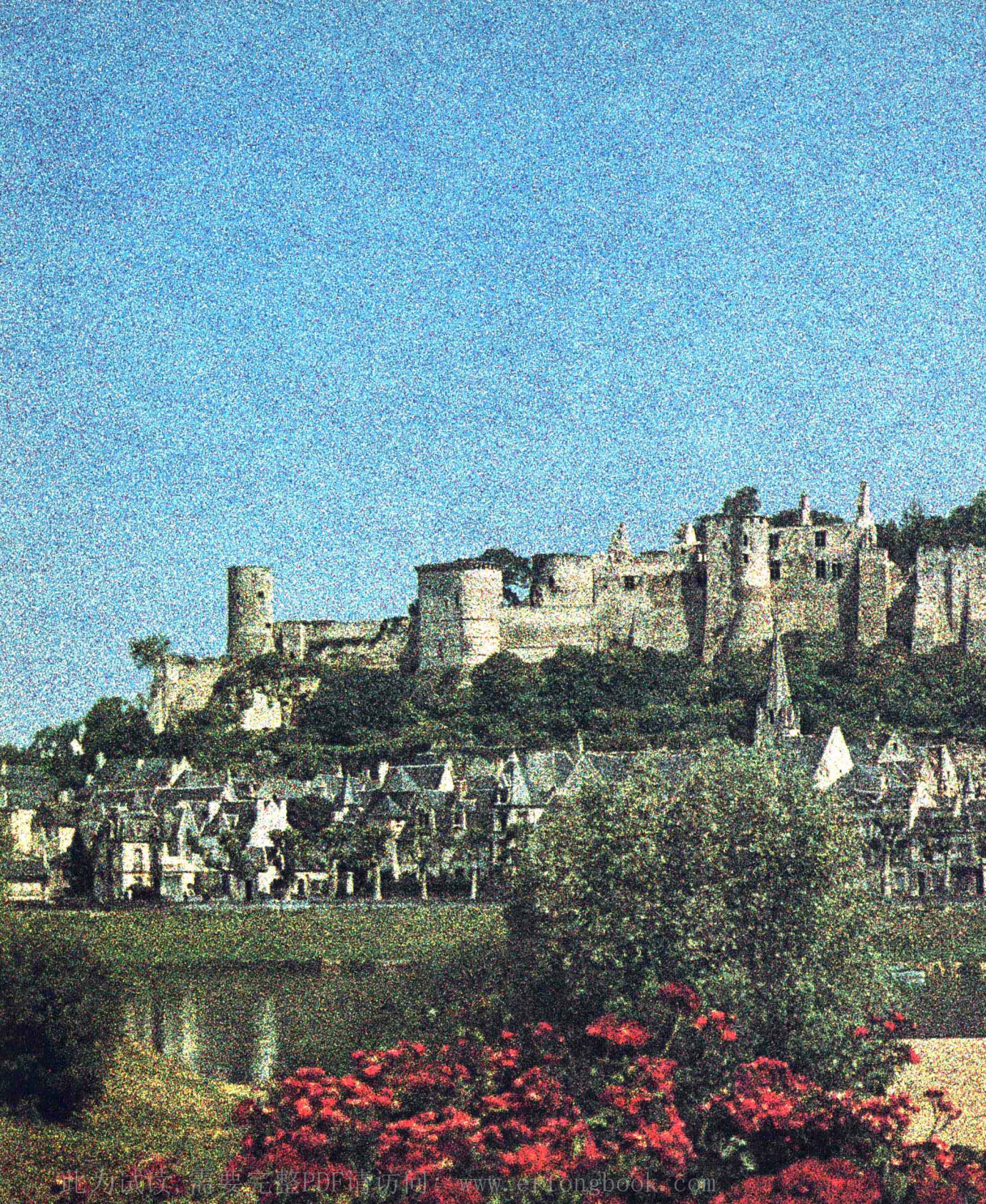
作　者　ルネ＝ギヨ
訳　者　塚原亮一（つかはらりょう）
発行者　野間省一
発行所　株式会社　講談社
東京都文京区音羽2—12—21
電話　東京(03)945-1111〈大代表〉
郵便番号112　振替東京3930
印刷所　図書印刷株式会社
製本所　図書印刷株式会社

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。
Printed in Japan





ジャンヌ＝ダルクの歴史を語るシノン城（フランス）



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

こどもの世界文学

《フランス編・4》

こいぬの月世界探検

ルネ＝ギヨ作

塚原亮一訳

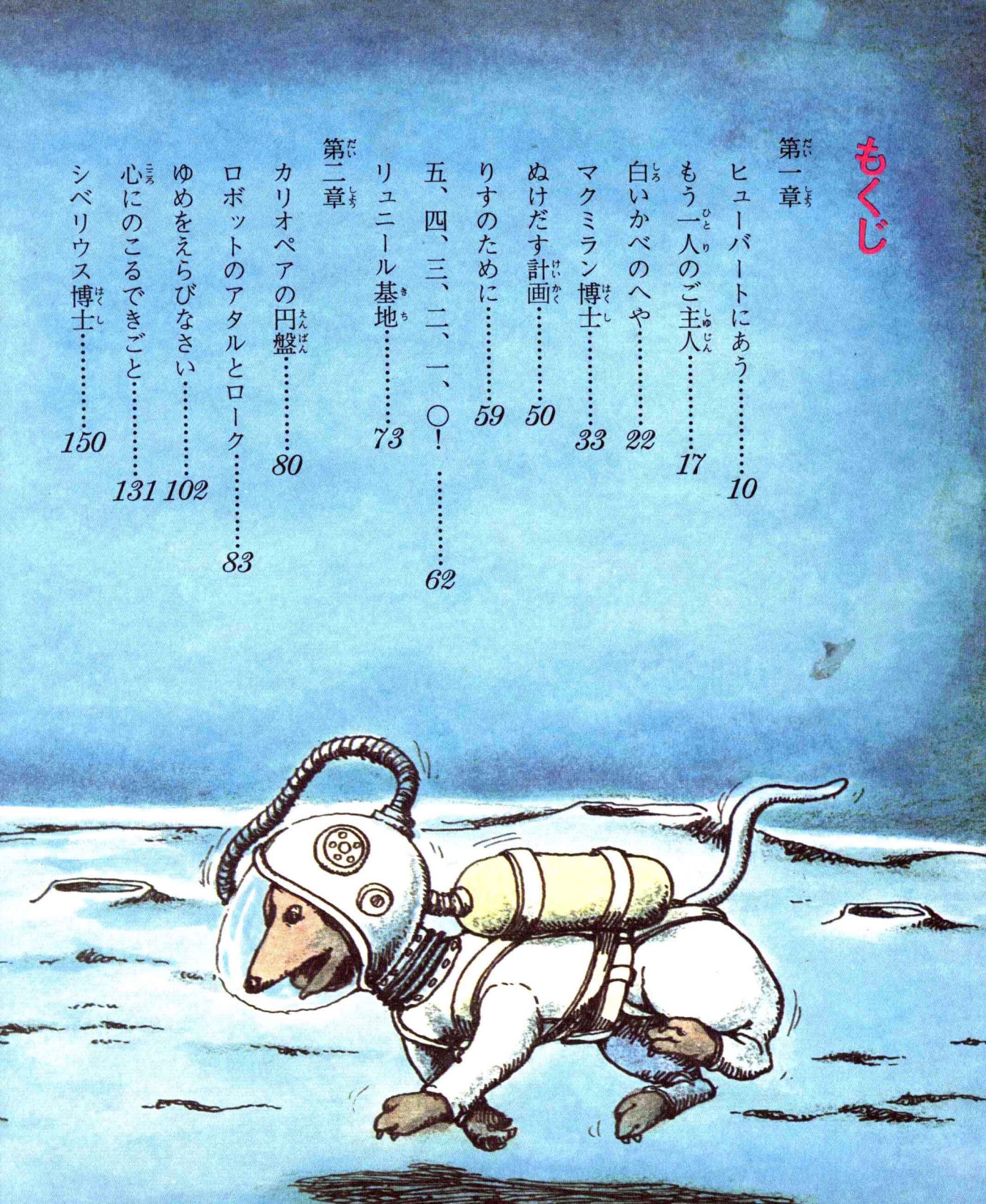
もくじ

第一章

ヒューバートにあう……10
もう一人のご主人……17
白いかべのへや……22
マクミラン博士……33
ぬけだす計画……50
りすのために……59
五、四、三、二、一、〇！……62
リュニール基地……73

第二章

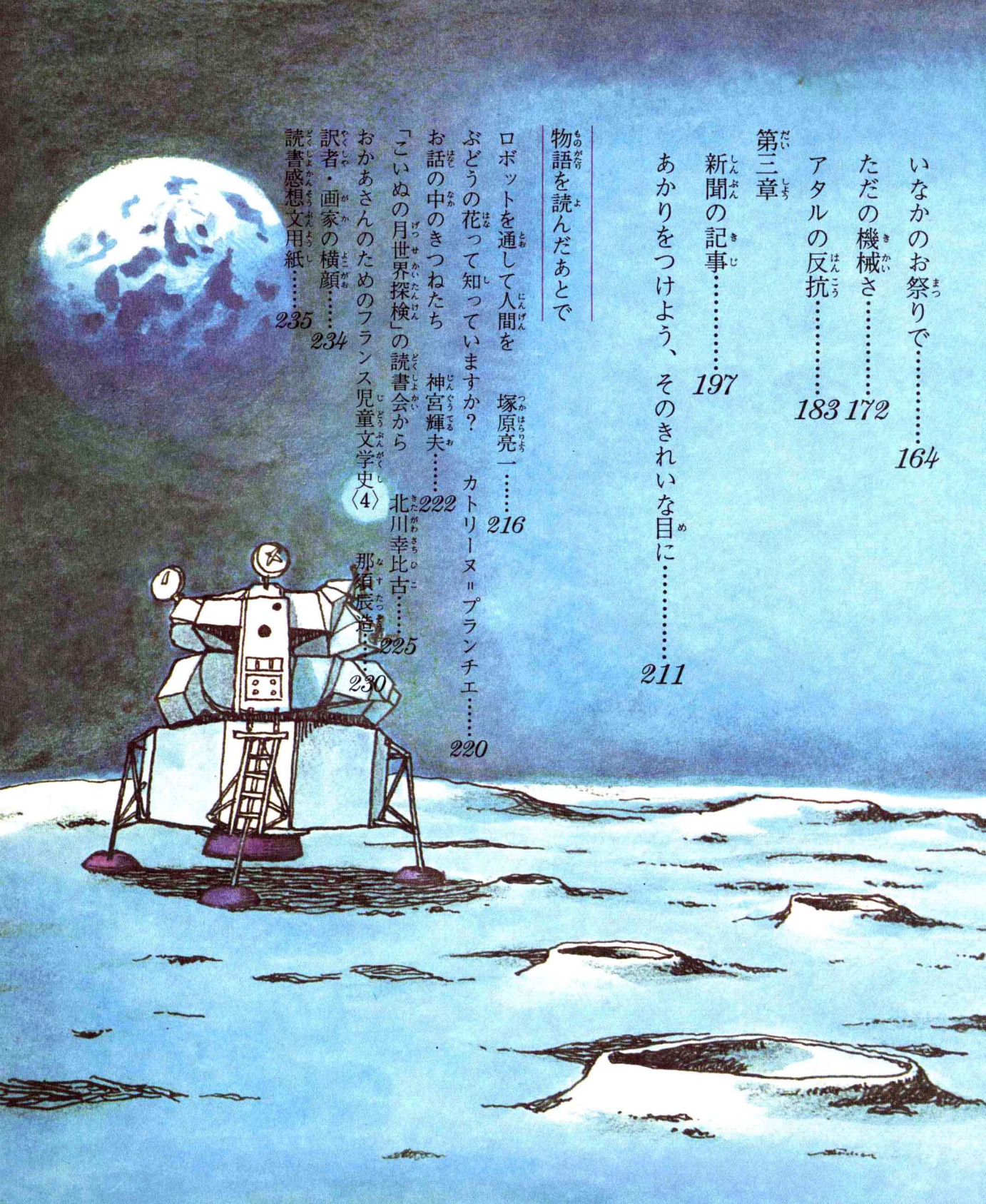
カリオペアの円盤……80
ロボットのアタルとローク……83
ゆめをえらびなさい……102
心にのこるできごと……131
シベリウス博士……150



いなかのお祭りで……164
ただの機械さ……172
アタルの反抗……183
第三章
新聞の記事……197
あかりをつけよう、そのきれいな目に……211

物語を読んだあとで

ロボットを通して人間を　塚原亮一……216
ぶどうの花って知っていますか？　カトリーヌ＝プランチエ……220
お話の中のきつねたち　神宮輝夫……222
「こいぬの月世界探検」の読書会から　北川幸比古……225
おかあさんのためのフランス児童文学史〈4〉　那須辰造……230
訳者・画家の横顔……234
読書感想文用紙……235



Un petit chien va dans la lune
par
René Guillot
Copyright © Librairie Hachette 1970
Japanese translation rights arranged through
Charles E. Tuttle Co. Inc., Tokyo, 1973.

原書のイメージをそこなわないよう，じゅうぶん配慮いたしました。

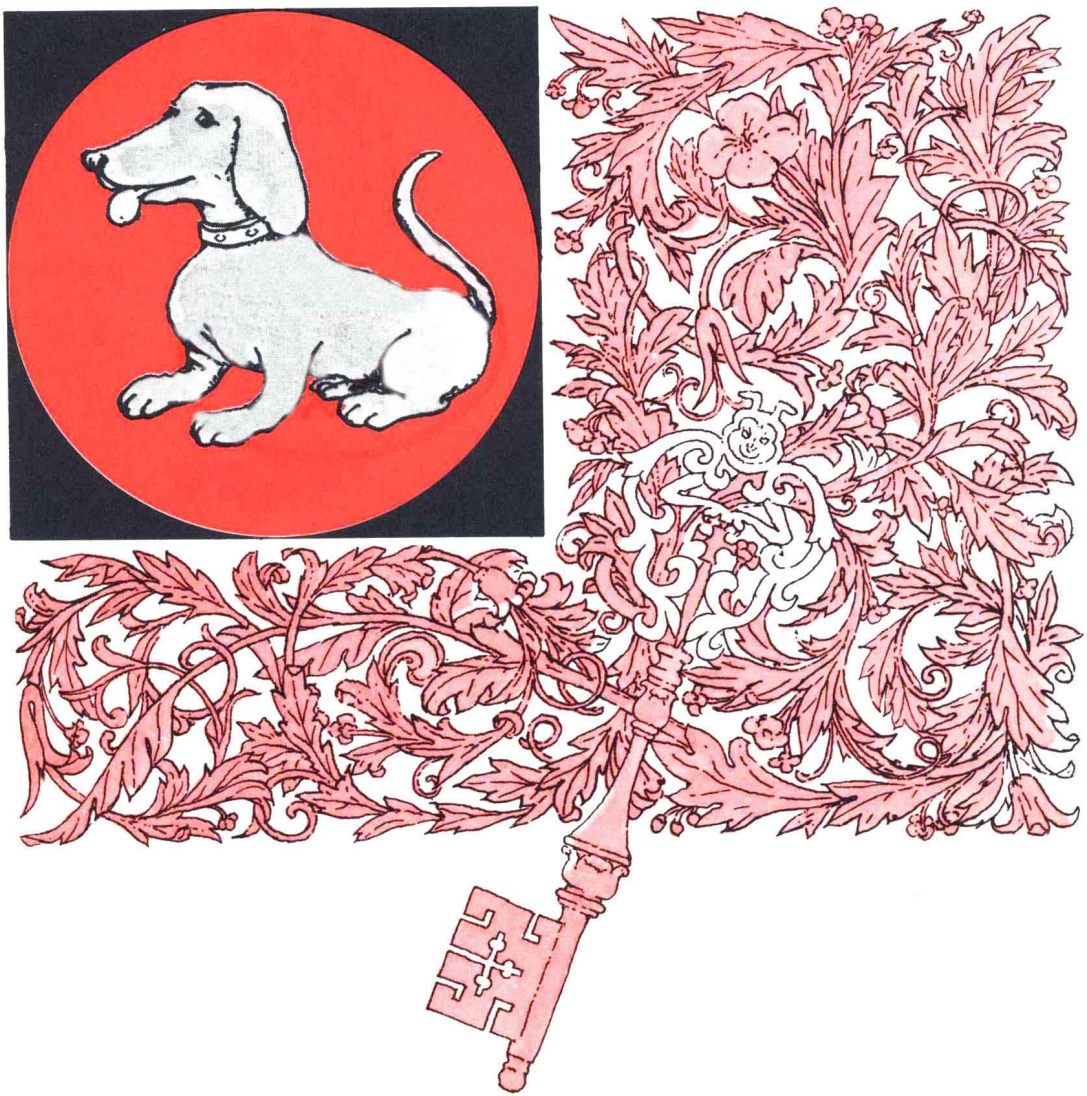
《責任編集》
神宮　輝夫
関　　楠生
安藤美紀夫
塚原　亮一
（日本編）鳥越　　信

✱協力
フランス大使館

装本　大橋　正
扉　安野光雅
さしえ　竹川功三郎
扉写真　井上宗和

こいぬの月世界探検

ルネ＝ギヨ作
塚原亮一訳
竹川功三郎絵



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第一章

ヒューバートにあう

これは、あるこいぬのうえに起こった、とうていほんとうとは思えない、ふしぎな物語です。

そのこいぬは、しっぽのみじかいダックスフンド種で、イダルゴという名まえでした。きつねにそっくりの毛なみですが、口のところがきつねよりもずっと長くつき出ていました。

ふしぎな冒険は、こいぬがフランスを出発したことからはじまります。イダルゴは、ボーイング型の旅客機で、ぶじに大西洋を横断してアメリカにわたりました。たった八時間の空の旅！

それにしても、どうして、こいぬが飛行機に乗ったのでしょうか。イダルゴの飼い主は、ファニーというやさしい女の子で、アメリカでくらすあいだ、イダルゴとはなれたくなかったからです。おかげで、こいぬのイダルゴも、外国旅行につきあうことになりました。

アメリカには、ファニーの、まだあったことのない、いとこのバーバラがいます。そのバーバラから、夏休みの二か月を、フロリダ州のいなかでいっしょにすごそうと、さそいがきました。バーバラのおとうさんのブルース＝オハラは、大きな農園を持っていて、競馬うまを育てたり、オレンジやわたを栽培しているのです。

ニューヨーク空港で一時間ほど休んでから、ファニーは、こいぬをうでにかかえ、スチュワーデスのあとについて、マイアミ行きの四発旅客機に乗りました。

目的地につくとバーバラがおとうさんのブルースとむかえに出ていました。ブルースは、がっしりとしたからだつきで、角ばったあごをしていました。手ときたら、ピンポンのラケットほどもあって、青い目は、すきとおるようで、赤くてかたいかみの毛は、ライオンのたてがみのようでした。

バーバラは、つるにちにちそうの花のような青い目をしていました。かみの毛は、おとうさんよりうすい赤ですが、みじかくカットしていましたから、銅のおなべでもかぶっているみたいでした。

ブルースは、ファニーを、かるがるとだきあげて、ほおにキスをしてくれました。おつぎは、バーバラが……。こうして、人間たちが二本足で立って、うれしそうにあいさつをかわしているあいだに、イダルゴは、四本足の仲間となかよしになっていました。あいては、バーバラの飼っている、コッカースパニエル種の、耳のたれた黒いぬです。

「おまえ、イダルゴって名まえだろう。おまえのご主人が、そうよぶのをきいたよ。おれはヒューバート。バーバラさんの家はすばらしいぜ。おれは、あの子となかよしなんだ。でも、あの子は、どっちかといえば、うまのほうがすきらしい。さあ、おまえ、ぴょ

んととびあがるんだ。これから、車に乗るんだから。ほら、ブルースさんがハンドルをにぎっているだろう。あの人は、スピードきちがいでね。高速道路をフルスピードでとばす。すると、おまわりさんがオートバイで追いかけてくる。オートバイは、はやいから、ぼくたちはつかまって、罰金というわけだ。でも、ブルースさんときたら、よろこんでいるんだ。それがあの人のたのしみらしい。」

こんなふうに、コッカースパニエル種のいぬが、ダックスフンド種のいぬをあいてに、飼い主のうわさ話をしているのを、バーバラが見つけました。

「あら、もう、いぬたちは、なかよしになったわ。わたし、そうなってくれればいいと思っていたの。どう、ファニー。あなたのいぬは、森の中へとびこんでいかない？」

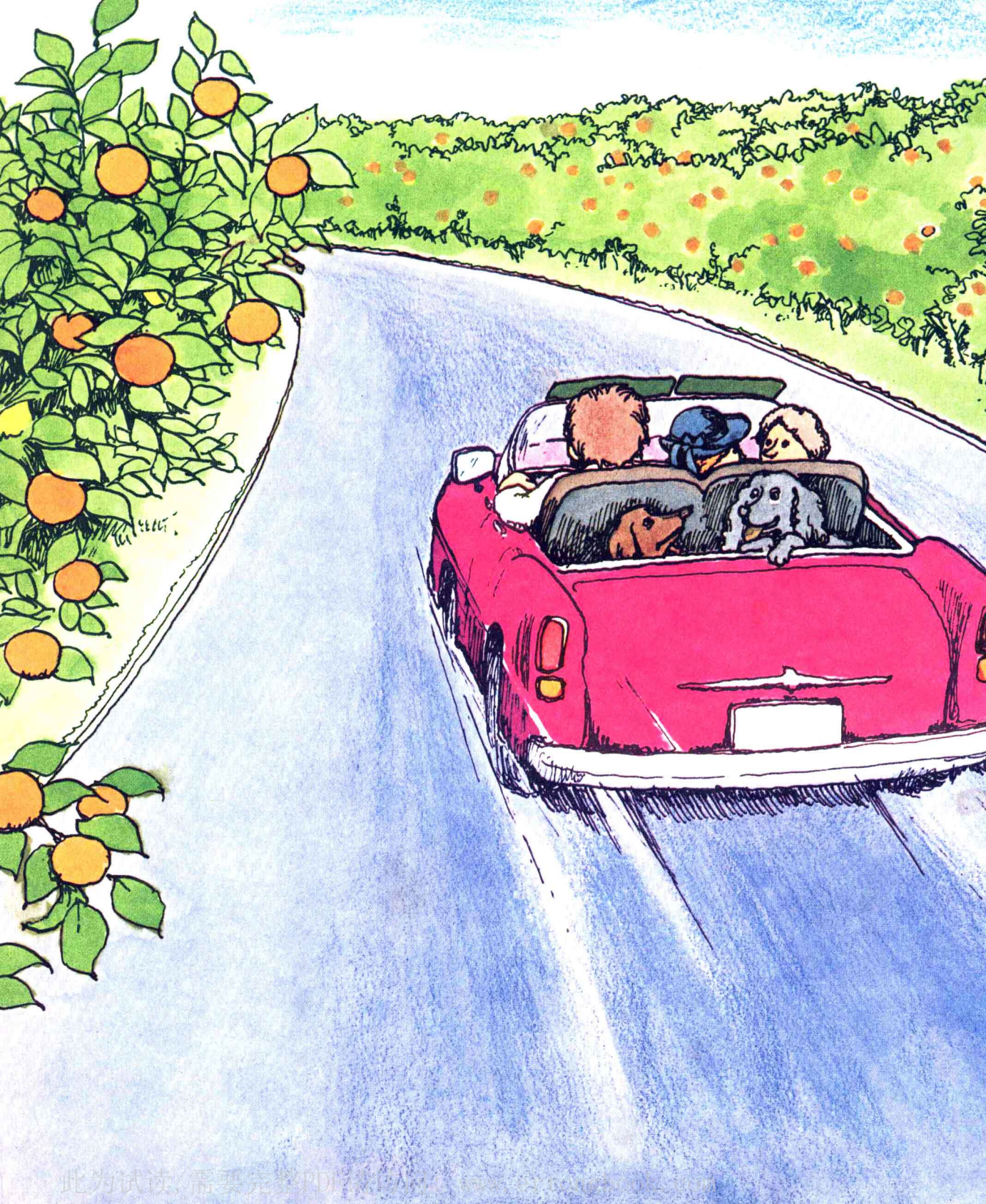
「もちろん、いくわ。」

「うちのヒューバートときたら、ジプシーみたい。このいぬが外へ遊びに出かけるたびに、もう、もどってこないんじゃないかとしんぱいになるの。だって、二週間ぐらいもどらないことがしょっちゅうなんですもの。いったい、どこへいくんでしょう。」

そこで、バーバラはことばをきると、西のほうを指さしていいました。

「ファニー。まっすぐにいけば、ここからケープケネディまで、二十キロもないの。知っているでしょう。ほら、宇宙飛行の基地のあるところよ。」

OPA-LOCKA



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com